板書計画

 ～郷土の先人に学ぶ～

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  （医者） ・１９０１年（明治34）生まれ ・座間市入谷に内科、小児科医院を開く |  胸像の写真 （写真①） |  |  「ここに聖医ありき」 （写真②） |  |
|  |
|  |

|  |  |
| --- | --- |
|  　　　　　　 模造紙　・学校の成績抜群 自分がもらい子だったことを知る 本籍は石川県 → 神奈川の高校に ↓ 入学できず 反抗的になる 実力があるのに中学入学不可 　　兄のいる神戸へ・中２のとき育ての母が亡くなる（５６歳） 母が政三に医者になるように言い残す・大正10年　２年間の浪人後、長野県松本高校へ入学 ”ゴリラ”というあだ名・「悩み 」　・不況で兄からの仕送りが途絶える ・心から甘えられる肉親がいない・１９２５年　　金沢医科大学に入学・１９２９年 卒業　→ 軍医になる（陸軍）・１９４０年　　志願して中国に赴任 出世 傷病兵を救う 戦後、国立相模原病院の内科医長として勤務 食糧不足　→　病院の庭を開墾 （入院患者のために）・１９３２年　結婚　３人の息子を授かる 家計が苦しい → 国立病院の医師として高い地位に昇ることを断念 ↓ 座間に医院を開業する |  |

|  |  |
| --- | --- |
|  Ｑ１　地域の人々にとって、庵先生はどんな存在だったのだろう？ |  |

 　 ・どんな人にでも親切に診察してくれる優しい医者

 　 ・地域の人たちにとって、心強い存在

 　 ・人柄を慕い、心から尊敬される医者

|  |  |
| --- | --- |
|  Ｑ２ 庵医師の胸像は、私たちに何を伝えているのだろう？ |  |

 ・地域にすばらしい医師がいたこと

 ・地域医療に尽くした庵先生への感謝の気持ち

 ・人々のために尽くすことのすばらしさ

 ・地域の絆